

タイトル	人と人も国と国もつながっている。大切なのは尊重と協力。		
名前	宇田 竜子		
学校名	草津市立高穂中学校		
担当教科	英語		
実践教科	選択英語	時間数	11時間
対象学年	2年生 1、2年生(特別支援学級)	対象人数	127名

カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・タンザニアについて知り、異文化に興味を持たせる
- ・世界の状況や経済の仕組みを知り、課題に気づかせる
- ・日本がしている様々な援助の形を知り、協力とは何かを考えさせる

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ：日本とタンザニア。 つながりへの第一歩！ ねらい： 英語でメッセージを書く タンザニアに興味を寄せる	①教師が海外研修に参加しタンザニアへ行くことを生徒に話す ②タンザニアの中学生への自己紹介と日本紹介のメッセージを英語で書く ③各メッセージを模造紙に貼りつけ、デザインする	・模造紙 ・色ペン ・折り紙 ・のり ・はさみ
2限目 テーマ：タンザニアンビンゴで、タンザニアの達人になろう！ ねらい： タンザニア文化について楽しく学ぶ タンザニアに興味を持つ	①タンザニアンビンゴ ・タンザニアについてのクイズを、実物を見たり、タンザニアの写真を見ながら解く ・ビンゴになった数をスワヒリ語で計算する ②タンザニアンビンゴを通して、タンザニアについて知ったことや気づいたことを書く	・パワーポイント ・タンザニアで購入してきた物 ・ビンゴシート(数種類) ・感想プリント
3限目 テーマ：タンザニアンBAGの中身は…？ ねらい：日本の文化や生活との違いを考える	①タンザニアンBAG ・教師がタンザニアで購入してきたものを見て、触れて、そのアイテムが何か、何の目的で使うのかを考える ②タンザニアンBAGを通して、タンザニアについて知ったことや気づいたことを書く	・パワーポイント ・タンザニアで購入してきた物 ・タンザニアで撮影した写真

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
4 限目 テーマ：ちがいのちがい ねらい：物事にはいろんな見方があることに気づく 自分たちの生活を見直す	①ちがいのちがい ・カードの項目を読み、あっていい違いか、あってはならない違いかを、個人→グループで考える。 ②グループで考えた意見を発表する。 ③なぜちがいが生まれるのか、また、ちがいを 知った今は、どう行動しようと思うかを考える。	・パワーポイント ・タンザニアで撮影した写真 ・ちがいのちがいカード
5 限目 テーマ：世界がもし100人の村だったら ねらい：世界の課題を体感する	①「世界がもし100人の村だったら」のワークショップ（クラス生徒人数のバージョンで行う） ②感じたことをグループで話す	・100人村セット ・パワーポイント
6 限目 テーマ：貿易ゲーム ねらい：世の中のしくみを知る 世界の経済格差、不公平さを感じる	①「貿易ゲーム」のワークショップ ②ゲームで感じたことを話し合う	・小道具多数
7 限目 テーマ：日本 IN タンザニア。タンザニア IN 日本。 ねらい：協力しあうことの大切さを知る	①フォトランゲージ ・日本で撮影した写真がどれかを推測する ②日本のタンザニアや他の国に対する支援の形を知る ③震災時に日本が各国から受けた援助を知る ④感想を書く	・タンザニア等で撮影した写真 ・パワーポイント ・青年海外協力隊がカンガのはぎれで製作したわらじ

実践授業の詳細

< 1 限目：日本とタンザニア。つながりへの第一歩！ >

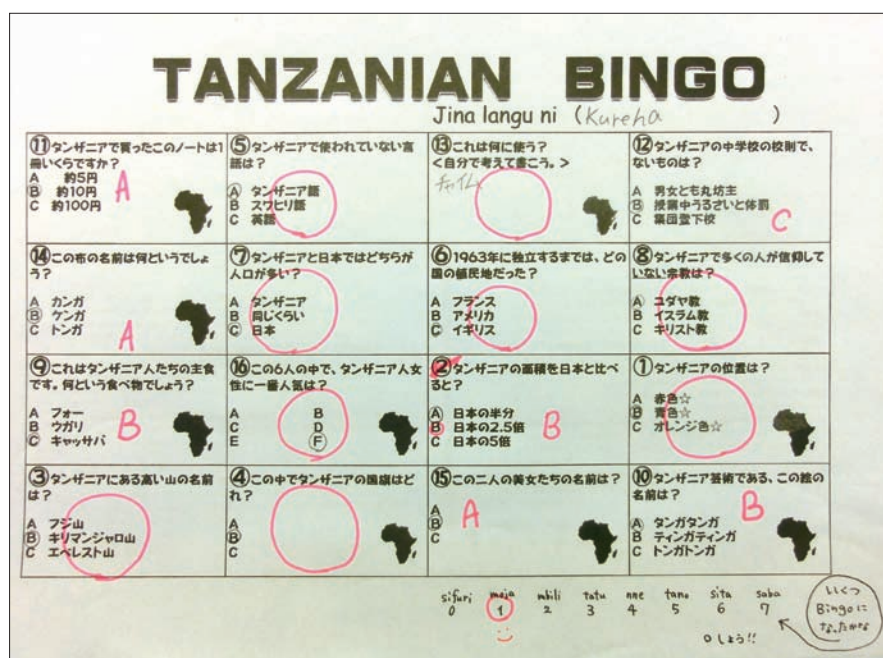


<写真1>自己&日本紹介ポスター

タンザニア学習を進めていくにあたっての準備として、海外研修前である1学期に、授業を行った。タンザニアについて、全く何も知らない状況で授業を受けるよりも、ほんの少しでも関心を持って学習に入らせたいと考えた。完成したポスターは、責任を持ってタンザニアの中学校へ届けることを生徒に約束した。また、2学期からのタンザニア学習に関して期待感を持ってもらうため、タンザニアからクラスの生徒へ暑中見舞いを送った。

< 2 限目：タンザニアンビンゴで、タンザニアの達人になろう！ >

授業のねらいは、タンザニアについて楽しく学ぶことである。タンザニアについての驚きや発見がたくさんあるような授業をしたいと考えた。授業は、教師が撮影してきた写真や、購入してきた物を見たり、教師のタンザニアでの話を聞いたりしながら、ビンゴゲーム形式で学んでいく、16問のクイズである。生徒たちは、写真や実物からヒントを見つけたり、タンザニアでの生活を想像をしながら、クイズの答えを考えており、授業はかなり盛り上がった。



<写真2>ビンゴシート



<写真3>授業の様子



<写真4>クイズの一部

生徒の感想

- ビンゴクイズで楽しく面白く、タンザニアのことを知ることができました。クイズで、中学校のことや、食べ物のこと、タンザニア女性のこと、商品のことなどが良くわかりました。最後は、おもしろいクイズで、驚きの結果だったので、びっくりしました。
- 全然正解できなかったけど、もっともっと、こんな授業がしたいです。
- 今回の学習で、他の国の事を知ることは楽しいと思いました。自分の全然知らないことなどが聞けて面白かったです。先生にタンザニア人の友達ができたと聞いて、英語を話せれば、色々な国の人と会話ができ、自分の知らないことも知れるのでいいなあと思いました。もっと英語を勉強したいと思いました。
- 今回の授業で、日本や、他の国についても興味が湧きました。タンザニアの国旗の意味やキリマンジャロの名前の由来などを知って、日本の国旗の意味や地名の由来なども知りたくなりました。
- 自分の知らない国の文化に触れられて、とても楽しかった。タンザニアみたいに、違う宗教を信じている人同士が仲良くできる国がもっと増えたら、戦争とかテロとかなくなるんじゃないかなと思った。

< 3 限目：タンザニアン BAG の中身は…？ >

授業のねらいは、教師がタンザニアで購入してきた物を、見たり、触ったり、においを嗅いだりしながら、そのアイテムが一体何で、何のために使われているものなのか、どうして使われているものなのか、を考えることである。“どうして使われているものなのか”を考えることから、日本の生活や文化との違いに気づかせたい。

○使用アイテムと学習のねらい：(オープナー：マコンデ彫刻の伝統文化、カタ：頭にものを載せて運ぶ文化、不必要なものを使わない、ウドンゴ：自然のものを栄養剤にする、ゴミが出にくい包装、チャヌオ：マコンデ彫刻の伝統文化、人種の違い、ウブユ：ゴミが出にくい包装、ファギオ：自然のものを利用、キバタリ：電気のない暮らし)

6つのアイテムは、タンザニアで購入してきたかばん (BAG) の中に収め、一つずつ披露していった。生徒たちに順番に回して、触らせ、使用方法を考えさせた。

生徒の感想

- 生活にゴミが出ない文化は素晴らしいと思った。日本のような便利すぎる生活はゴミを増やすだけだと思った。
- 妊婦さんのための栄養食があったり、瓶のふたを開けられるものがあったりして、タンザニアも他の国に負けないくらい工夫をしているなあと思った。ココナツの葉だけでほうきを作ったりと、とてもエコで環境に優しいところは、日本や先進国も見習うべきだと思った。
- タンザニアにちゃんと電気が通ればいいなと思いました。その理由は火傷をする人が多いからです。



<写真5>タンザニアン BAG とアイテム



<写真7>授業の様子



<写真6>授業の様子

アイテム名	使いつつた言葉	その言葉の意味(日本語)	数
オープナー	くし	かきまわす	2
カタ	はし	はし	2
チャヌオ	コップ	かきまわす	1
ウドンゴ	チロ	かきまわす かきまわす	0
ファギオ	アサギ	かきまわす かきまわす	1
キバタリ	つばき	かきまわす かきまわす	0
ウブユ	かきまわす	かきまわす かきまわす	1

<写真8>ワークシート

< 4 限目：ちがいのちがい >

4 限目からは、先進国と途上国の様々な違いについて考えさせる授業にしていきたい。授業のねらいは、ちがいのちがいワークシートで使用する項目によっていくつかある。

①水道はないけれど、水汲みを楽しそうにしているタンザニアの子どもたち。水道水が飲めるけれど、まずいと言ってペットボトルの水を買う日本人。②学校には十分な椅子や机はないが譲り合うタンザニアの子どもたち。机や椅子が十分にあるが、机や椅子に落書きをする生徒もいる日本の生徒。⑦タンザニアの子どもが欲しいものの1位は、教育、日本の子どもが欲しいものの1位は、お金。⇒どうして①②⑦のような違いが生まれるのか。日本に住む私たちの生活を共に見直していきたい。⑥日本はタンザニアに多くの支援、援助をしている。タンザニアも、東日本大震災時に寄付や寄贈をしてくれた。できる人ができる時にできることをする。それは国同士の関係でも人間関係でも同じであることに気づかせたい。④世界の20%の先進国が、世界のエネルギーの70%を消費している現実を知らせる。薪での調理は危険が伴うだけでなく、森林消滅にもつながることを知らせる。この現実をどうすればとよいと思うかを考えさせたい。

生徒の様子等

生徒にとっては、新たに知る現実が多かったので、写真等も用いて、一つの項目についての説明や解説に時間をかけた。4人グループでの、あっていい違いか否かを話し合う場では、予想したほど、意見が割れなかった。しかし、どうしてそのような違いが生まれるのか、については様々な意見が出た。5, 6 限目の授業で、世界の国々の状況、先進国と途上国の格差や世界の状況を感じてもらいたいと思っている。それにより、4 限目の学習がさらに深まると考えている。

①アイーシャの家には、水道がないので、毎朝夕、1キロ離れた井戸まで水を汲みに行くが、真由子の家には水道があり、いつでも好きな時に水を飲むことができる。	②ナチングウエア中学校の教室には、一人一つずつ机や椅子がないが、高級中学校の教室には一人一つずつ机と椅子がある。	③レオポルドはウガリと米を主食として食べる。理沙は米は食べるが、ウガリを食べない。
④日本のほとんどの家庭では、料理の熱源にガスや電気を使うが、タンザニアの多くの家庭では薪を使う。	⑤タンザニアでは荷物を運ぶ時に、頭に載せて運ぶが、日本ではカバンやワゴンなどを使用して運ぶ。	⑥タンザニアには、日本が無償で作った橋や道路があるが、日本にはタンザニアが無償で作ってくれた橋や道路がない。
⑦ナチングウエアの中学生が最も欲しいものは、教育、であるが、高級中学校2年3組、奈良県のH中学校の生徒が最も欲しいものは、お金、である。		

<写真9>ちがいのちがいカード

< 5 限目：世界がもし100人の村だったら？ ワークショップ >

授業のねらいは、実際に動いたり、別の国の人物になりきることで、世界の様々な課題を体感させることである。平和な世界を望んでいる生徒たちに、このままでいいのか？という意識を持ってもらいたい。

①女性と男性どっちが多い？②世界は今、高齢化？若年化？③大陸ごとにわかれてみよう④世界の言葉で“こんにちは”⑤文字が読めないということ⑥世界の富はだれが持っている？

< 6 限目：貿易ゲーム >

授業のねらいは、世界経済の仕組みと問題点について理解することである。ゲームを通し

て不平等感を感じさせ、格差のない世界にしていくためにはどうすればよいのかを考えさせたい。

<7 限目：日本 IN タンザニア、タンザニア IN 日本>

最終授業では日本とタンザニア、そして世界中の国々はつながりあっていて、自分たちもそのつながりの一部である、と感じてほしいと思っている。

(1) フォトランゲージ：日本で撮影した写真はどれ？

最初は各写真の一部分のみを見せる。生徒は、教師のヒントを聞きながらタンザニアで撮影した写真か日本で撮影した写真を推測する。日本で撮影したものは、1枚だけである。教師は、6枚の写真がどのように、日本とタンザニアをつなげているのかを解説していく。



<写真10～12>フォトランゲージ写真の一部

(2) 日本のタンザニアや他の国に対する支援の形を紹介する

- ・ 青年海外協力隊の方の活動紹介



<写真13>パワーポイント資料の一部

(3) 東日本大震災時に各国から受けた援助の紹介



<写真14>パワーポイント資料の一部

実践授業を通しての所感・反省と今後の展望

伝えたいことがあまりにも多くある中で、厳選する作業が辛かった。しかし授業内容を考えることも含めて、自分自身も楽しんで授業をすることが出来た。生徒たちには、授業を通して、私たちが世界とのつながりの中で生きていることに、気づいて欲しいと思っていた。授業を計画通り進められなかった部分もあったため、ねらいはまだ全ては達成できていない。心残りも多いが、これからの授業で、さらに深い学習にしていきたい。自分自身も、これからも開発教育に関わり、学び続けていきたいと思っている。